

図書館だより

開館時間（共通）9：00～17：30
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566
 葦山図書館 ☎ 055-949-8605
 URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>



今月のおすすめ

一般
【中央】



傍聴者
折原一／著
文藝春秋

交際相手に金品を貢がせ、自殺に見せかけて殺害した牧村花音。傍聴に通う女性たちは「毒っ子倶楽部」を結成。花音は果たして毒婦か？聖女か？法廷劇の驚きの結末とは。

一般
【葦山】



お龍のいない夜
風野真知雄／著
小学館

時は幕末。京都、七条新地の旅館で働くお龍は、勤皇の志士の隠れ家で、坂本龍馬と出会う。龍馬はお龍に惚れ込み…。妻・お龍との愛を軸に描く新時代の龍馬伝。

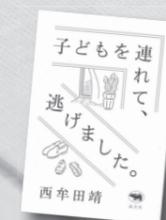
一般
【葦山】



Seven Stories
星が流れた夜の車窓から
井上荒野／ほか著
文藝春秋

退職を機に妻を旅行に誘う夫。でも妻には秘密の人生設計が。桜木紫乃「ほら、みて」ほか、寝台列車「ななつ星」を舞台に、恩田陸、小山薫堂ら7人が綴る小説と随筆。

一般
【中央】



子どもを連れて、逃げました。
西牟田靖／著
晶文社

16人のシングルマザーたちは、困難な状況をどのように生き抜いたのか。妻子に去られた著者が、自らの過去を振り返り、女性たちの声に耳を傾けるルポルタージュ。

新着本コーナーから

- 一般 冬の狩人 大沢在昌／著 【中央・葦山】
- 一般 私を月に連れてって 鈴木るか／著 【中央】
- 一般 十の輪をくぐる 辻堂ゆめ／著 【中央】
- 一般 ガラスの50代 酒井順子／著 【葦山】
- 一般 ヴァイオリニストの第五楽章 前橋汀子／著 【葦山】
- 一般 デス・ゾーン ―栗城史多のエベレスト劇場― 河野啓／著 【中央】

2月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	⑩	⑪	12	⑬
14	⑮	16	⑰	18	19	20
21	⑳	㉑	㉒	25	㉔	㉕
28						

○中央休館日 □葦山休館日
◇両館休館日 ☆おはなし会

2月のおはなし会

中央図書館 13日(土) 11:00～
 葦山図書館 13日(土) 14:00～
 27日(土) 14:00～
 ○感染防止対策を施したうえで実施します。

お知らせ

ほかの市町立図書館も利用できます。

伊豆の国市立図書館の利用者カードを持っている人は、伊豆市、三島市、沼津市、函南町の図書館でもカードを作って借りることができます。カードを作るときに必要なものや、利用できるサービスは各市町によって異なりますので、各図書館にお問い合わせください。

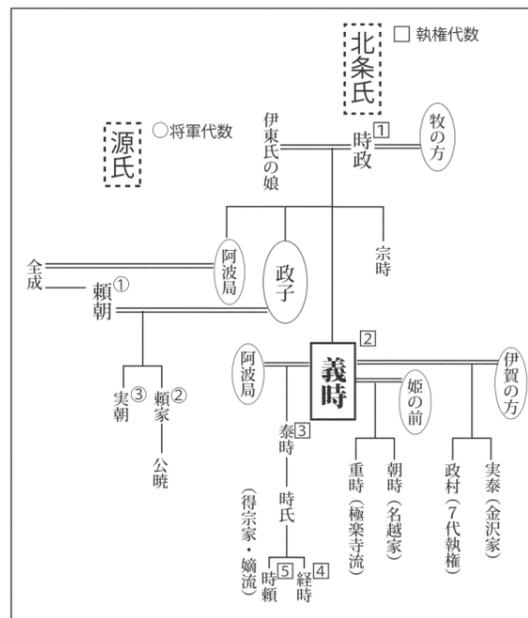
文化財通信

その188

伊豆の国市からはじまる北条義時の足跡

第2回 北条義時はどんな人？ その1

文化財課 ☎ 055-948-1428



北条義時中心系図

次に家族構成を見ていきましょう。父は北条時政です。母は伊東氏の娘と書かれているだけで名前が伝わっていませんが、伊東祐親の娘という説が有力です。義時は次男

で、上に長男宗時がいました。ただし、宗時は、頼朝の旗擧げの時、石橋山の合戦で討たれ、亡くなっています。有名な北条政子が姉で、源頼朝は義理の兄になります。また、姉か妹かわかりませんが、阿波局という姉妹があり、頼朝の弟、阿野全成と結婚しています。源家と北条家のつながりの深さが婚姻関係からもわかります。妻は、記録に残っている人としては、3人います。1人目は「阿波局」という女性です。系図に「官女」と書いているので、鎌倉幕府に勤める女官なのでしょう。姉妹の阿波局とは別人です。2人目は「姫の前」という女性で、最有力御家人比企氏の娘です。3人目は「伊賀の方」と呼ばれた女性で、伊賀氏の娘です。子どもの数は史料や系図によって異なりますが、確実な記録に残っているだけでも11人います。嫡流、つまり本家を継いでいくのが泰時です。この系統は「得宗家」と呼ばれ、代々幕府の執権職を担ってきました。他の子どもも系統も、金沢家、名越家、極楽寺流など、分家として成立してきます。義時が北条家の繁栄の礎を築いたといえるでしょう。

「北条義時の足跡」の第2回は、生い立ちと家族を見ていきましょう。今回紹介する義時の事柄は、主に鎌倉時代の後期にまとめられた鎌倉幕府の公式の歴史書『吾妻鏡』を元にしています。他に系図や年代記なども参考にしていますが、鎌倉時代初期は史料が乏しいため、歴史家の中でも諸説あり、意見が分かれていることも少なくありません。義時が生まれたのは長寛元年(1163)、京都では平氏が栄えていたころです。生まれる3年前に源

頼朝が平家に敗れて、伊豆に流されてきました。幼年から青年期にかけては「江間(江馬)小四郎」と呼ばれていました。江間は、伊豆の国市江間地区のことです。北条氏ではなく、江間氏を名乗ったいきさつについては諸説ありますが、主な説として次の二つを挙げておきます。一つは北条時政が江間地区に勢力を広げるために、分家として義時に館を構えさせた、というものです。別の説として、もともと江間には江間家があり、そこに養子として入ったとも言われています。

で、上に長男宗時がいました。ただし、宗時は、頼朝の旗擧げの時、石橋山の合戦で討たれ、亡くなっています。有名な北条政子が姉で、源頼朝は義理の兄になります。また、姉か妹かわかりませんが、阿波局という姉妹があり、頼朝の弟、阿野全成と結婚しています。源家と北条家のつながりの深さが婚姻関係からもわかります。妻は、記録に残っている人としては、3人います。1人目は「阿波局」という女性です。系図に「官女」と書いているので、鎌倉幕府に勤める女官なのでしょう。姉妹の阿波局とは別人です。2人目は「姫の前」という女性で、最有力御家人比企氏の娘です。3人目は「伊賀の方」と呼ばれた女性で、伊賀氏の娘です。子どもの数は史料や系図によって異なりますが、確実な記録に残っているだけでも11人います。嫡流、つまり本家を継いでいくのが泰時です。この系統は「得宗家」と呼ばれ、代々幕府の執権職を担ってきました。他の子どもも系統も、金沢家、名越家、極楽寺流など、分家として成立してきます。義時が北条家の繁栄の礎を築いたといえるでしょう。